

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第6部門第1区分
【発行日】平成20年6月19日(2008.6.19)

【公開番号】特開2008-2896(P2008-2896A)
【公開日】平成20年1月10日(2008.1.10)
【年通号数】公開・登録公報2008-001
【出願番号】特願2006-171594(P2006-171594)
【国際特許分類】

G 0 1 F 1/692 (2006.01)

【F I】

G 0 1 F 1/68 1 0 4 A

【手続補正書】

【提出日】平成20年5月1日(2008.5.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

流体中に配置され電流を流すことによって発熱する発熱体と、
前記発熱体を間にして流体の通流方向にそれぞれ設けられた第1および第2の温度検出手段と、
前記発熱体と電氣的に接続される発熱体接続端子と、
前記第1および第2の温度検出手段と電氣的に接続される第1および第2の温度検出手段接続端子と、
前記発熱体と前記発熱体接続端子とを電氣的に接続する発熱体配線部と、
前記第1および第2の温度検出手段と前記第1および第2の温度検出手段接続端子とを電氣的に接続する第1および第2の温度検出手段配線部とを有する熱式流量計測装置において、
前記発熱体配線部と、第1および第2の温度検出手段配線部との間に一定電位に保持された配線パターンを有することを特徴とする熱式流量計測装置。

【請求項2】

請求項1に記載の熱式流量計測装置において、
前記発熱体の近傍に配置され前記発熱体の温度を検出する発熱体温度検出手段と、
前記発熱体温度検出手段と電氣的に接続される発熱体温度検出手段接続端子と、
前記発熱体温度検出手段と前記発熱体温度検出手段接続端子とを電氣的に接続する発熱体温度検出手段配線部と、
前記発熱体配線部と前記発熱体温度検出手段配線部との間に一定電位に保持された配線パターンを有することを特徴とする熱式流量計測装置。

【請求項3】

請求項2に記載の熱式流量計測装置において、
前記発熱体温度検出手段配線部と、
前記第1および第2の温度検出手段配線部との間に一定電位に保持された配線パターンを有することを特徴とする熱式流量計測装置。

【請求項4】

請求項1～3のいずれか1項に記載の熱式流量計測装置において、
前記発熱体と前記発熱体配線部とを構成する薄膜層と、

絶縁層を介在させて前記薄膜層を固定する導電性の平板基板とを有し、
前記配線パターンの幅が前記平板基板の厚み以上であることを特徴とする熱式流量計測装置。

【請求項 5】

請求項 4 に記載の熱式流量計測装置において、
前記配線パターンは前記平板基板に電氣的に接続されることを特徴とする熱式流量計測装置。

【請求項 6】

請求項 5 に記載の熱式流量計測装置において、
前記配線パターンには前記平板基板に電氣的に接続する接続部が連続的に配置されることを特徴とする熱式流量計測装置。

【請求項 7】

請求項 4 ~ 6 のいずれか 1 項に記載の熱式流量計測装置において、
前記平板基板は、拡散層を形成して低抵抗化されていることを特徴とする熱式流量計測装置。